

■宝塚ガーデンフィールズ跡地利活用方針とは

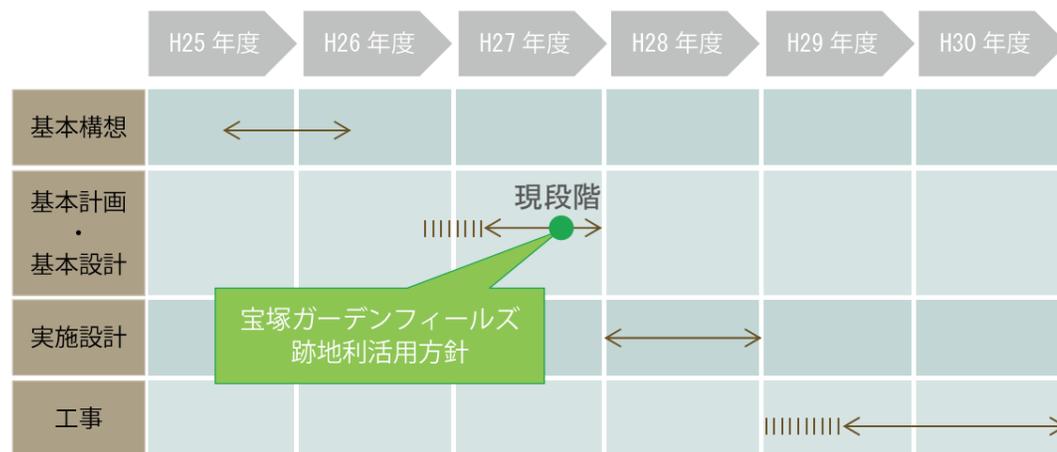
宝塚ガーデンフィールズ跡地が位置する場所には、かつて昭和初期に設立された旧宝塚植物園や昆虫館がありました。当時は、隣接する遊園地、動物園と合わせて市内外の多くの人に親しまれ、賑わいにあふれ、「家族」とりわけ「子ども」が集い、憩える場所でした。また、宝塚ファミリーランドの面影が唯一残された空間でもあり、多くの市民にとって、わがまちを象徴する貴重な一角です。

宝塚市は、当跡地について、緑をはじめとする現在の良好な環境を活用し、新たな宝塚文化の創造につながるような土地活用を図るため、手塚治虫記念館の北側部分の土地、約1haを取得しました。

当跡地の利活用に向けては、平成25年度から基本構想の策定に取り組み、現在、基本計画・基本設計についての検討を行っています。

宝塚ガーデンフィールズ跡地利活用方針（以下、「本方針」という）は、基本構想の考え方を踏まえ、さらに具体的な土地の利活用策を示すもので、今後、本方針に沿って計画内容やデザインを基本的な設計図面として作成するなど、基本計画・基本設計の策定作業を進めていきます。

■事業スケジュール（予定）



■これまでの検討状況と今後の進め方

(1) 基本構想の策定について（平成26年5月策定）

宝塚ガーデンフィールズ跡地の利活用内容や機能等について、概ねの方向性を定めたものです。取得目的に沿って、本市の発展に資する土地活用の方法を検討するため、市民ワークショップなどの開催により市民の意見を幅広く取り入れながら、基本構想を策定しました。（平成25年度にワークショップ4回、意見交換会2回、近隣自治会への説明会3回を開催）

(2) 基本計画・基本設計の策定について（平成27年度）

基本計画・基本設計は、基本構想の考え方をより具体化していくもので、現在策定作業を行っています。本方針は、この基本計画・基本設計の骨格部分にあたるものです。今後、本方針にもとづき、このエリア全体の基本計画や文化芸術施設、庭園、駐車場など各施設の配置や規模、デザインや機能など整備内容を示す基本設計を策定します。あわせて施設全体の管理運営や施設の賑わいづくりを支える市民サポーター制度の枠組み、運営方針などを検討していきます。

（基本計画・基本設計等策定業務委託事業者選定の経緯）

- ・基本計画・基本設計の策定にあたり、有識者等検討会（都市計画、文化芸術、景観・造園、観光・集客など各分野における知識経験者4名と市民委員1名の計5名で構成）を3回開催（平成26年11月～平成27年1月）し、意見聴取を行いながら、整備方針をとりまとめ、基本計画・基本設計策定業務のプロポーザル募集要項を作成しました。
- ・平成27年2月中旬から事業者を募集したところ、12者からの応募があり、審査した結果、東畑建築事務所・地域計画建築研究所・E-DESIGN設計共同体を受託事業者として選定しました。

(3) 実施設計の策定について（平成28年度）

今後、基本設計を踏まえ、インフラや建物など各施設の設計図面の作成、事業費の算出など実施設計の策定作業を行う予定です。加えて、施設におけるコンテンツやプログラムの検討、サポーターの育成などを行いながら、管理運営の内容について検討していきます。

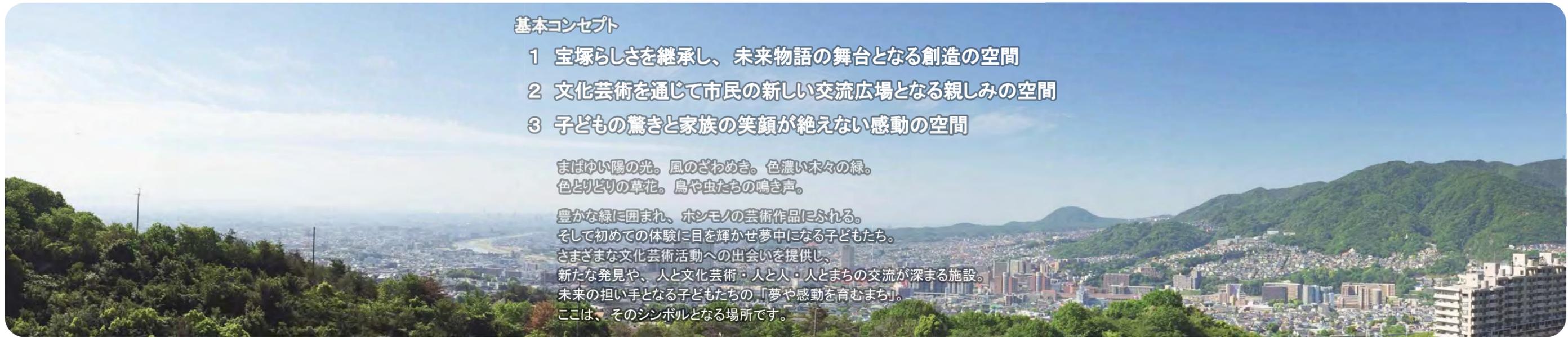
(4) 整備工事の着手について（平成29年度～平成30年度）

実施設計をもとに、文化芸術施設、庭園、駐車場など各施設の整備工事に順次着手していく予定です。またオープンに向けた企画や活動についてもスタートしていく予定です。



外観イメージ

※本資料内の平面図、パース図等は、整備・利活用のイメージを表しています。今後、本方針に沿った検討を詳細に行っていきますので、この内容で確定したものではありません。



基本コンセプト

- 1 宝塚らしさを継承し、未来物語の舞台となる創造の空間
- 2 文化芸術を通じて市民の新しい交流広場となる親しみの空間
- 3 子どもの驚きと家族の笑顔が絶えない感動の空間

まばゆい陽光の光。風のざわめき。色濃い木々の緑。色とりどりの草花。鳥や虫たちの鳴き声。

豊かな緑に囲まれ、ホシモノの芸術作品にふれる。そして初めての体験に目を輝かせ夢中になる子どもたち。さまざまな文化芸術活動への出会いを提供し、新たな発見や、人と文化芸術・人と人・人とまちの交流が深まる施設。未来の担い手となる子どもたちの「夢や感動を育むまち」。ここは、そのシンボルとなる場所です。

1. 宝塚ガーデンフィールズ跡地の位置づけ

Art-Place TAKARAZUKA

市内各地域ごとに受け継がれる暮らしや文化や伝統の積み重ねが「宝塚文化」を形づくりました。この「宝塚文化」そのものがアートであり、“まち”そのものが大きなミュージアムなのです。人と人、人とまち、人と文化や伝統とのつながりの輪を広げ、宝塚らしさを未来へ受け継ぎます。

【広域】「宝塚文化の都市構造」の中で位置付け

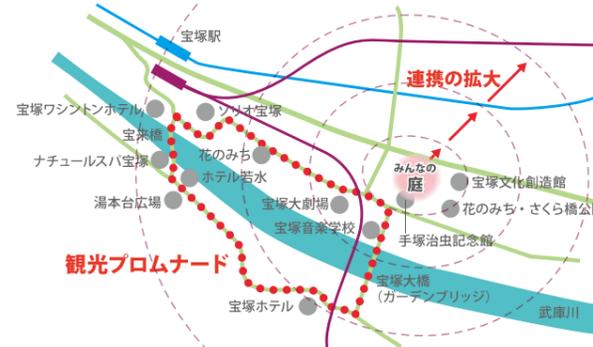
市内外の人々の交流や様々な活動の中から新たな都市文化が生まれる仕掛けづくりをめざす

【中域】都心部の拠点性を高め賑わいを生み出す

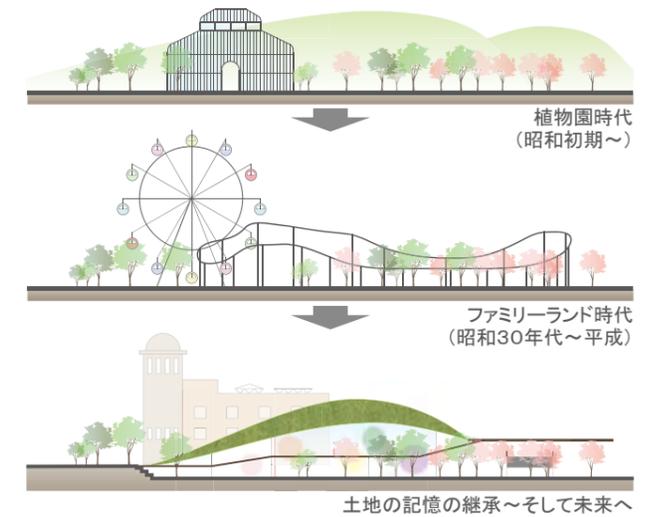
計画地周辺を「文化ゾーン」、市役所周辺を「シビックゾーン」とし、都心部の拠点性を高めることをめざします。

【近域】周辺施設と賑わいをつなぐ

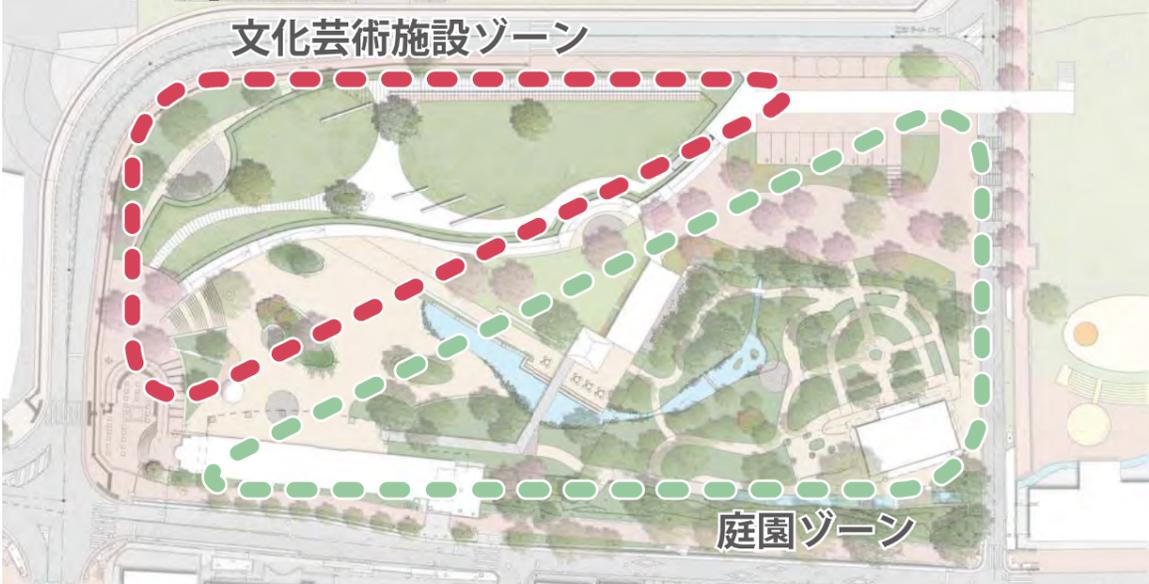
周辺施設との連携、観光プロムナードに沿った更なる賑わいを展開させることをめざします。



土地が受け継いできた景観や賑わいを未来へつなげる
この土地が持つ賑わいのある風景を継承し、形を変えて再びこの土地に根付く新たな賑わいの拠点として未来へ受け継ぎます。



■「みんなの庭」



創造・交流・感動により宝塚文化を深め、未来へ受け継ぐ
1haの敷地の中で文化芸術施設と庭園を配置し、それらが互いに連携することで、創造・交流・感動のたくさんのアクティビティを生み出します。



外観イメージ

2. 庭園整備について



発見・感動・創造・発信を生む場の形成

“活動方法”や“空間の質”がグラデーションで変化する「庭」づくり

①桜のエントランス(手塚治虫記念館前)

- ・地域に開かれ、エリア全体の顔となるエントランス空間
- ・文化芸術施設や庭園へ自然と誘うアクセス性に配慮した動線



②いのちの広場

- ・手塚治虫の思想を受け継ぎ、賑わいを生み出す開放的な広場空間
- ・手塚治虫記念館と文化芸術施設をつなぐ動線の確保

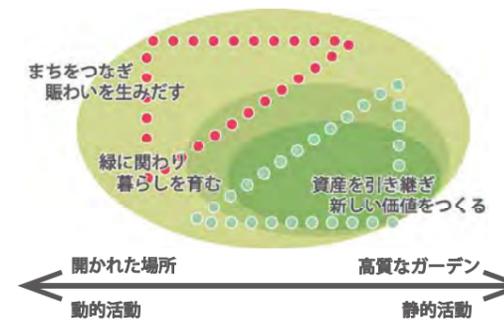
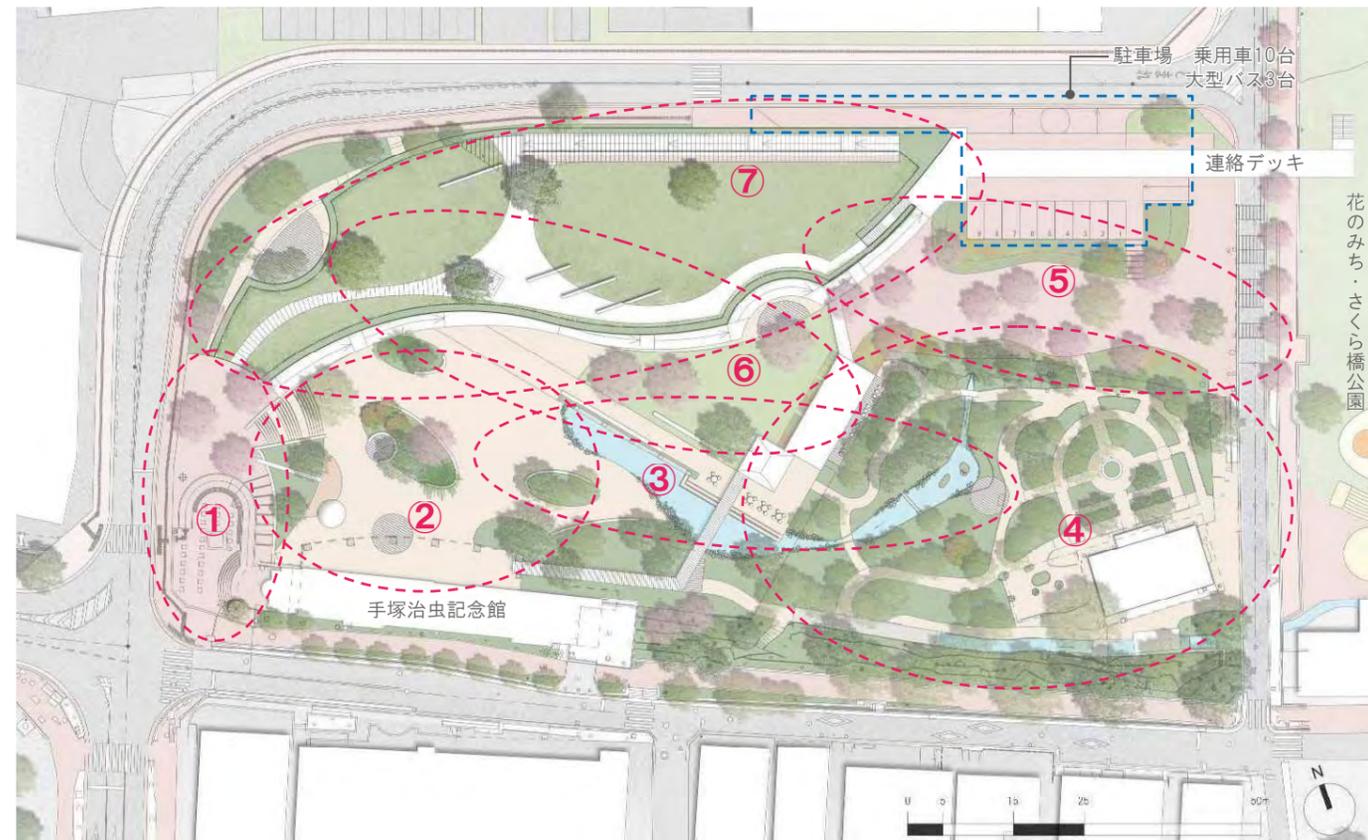


③せせらぎと親水池

- ・旧宝塚植物園時代から人々の記憶に残る水辺と欄干の風景を継承
- ・水に親しみ動植物に触れる環境への学びと遊びの空間
- ・環境に配慮したエコロジカルデザインの展開



文化芸術施設からメインガーデンまで、“活用方法”や“空間の質”にグラデーションを設けて整備することで、多世代が感性豊かに自然と触れ合うことができ、幅広い活動を受け止める「庭」とします



⑦ルーフガーデン(屋上庭園)

- ・静かで眺めの良い憩いの空間と心地よい散策路
- ・敷地全体をガーデンとらえたランドスケープ



⑥みんなの広場

- ・多様な活動スタイルを支える文化芸術施設と庭園の連携
- ・全天候型のイベント広場（ピロティ空間）の活用



⑤桜のプロムナード

- ・市民の日常を彩り、交流を促す賑わいの空間
- ・ファミリーランド時代から残る桜並木の風景の再現
- ・桜のエントランスから花のみち・さくら橋公園へとつながる桜並木の遊歩道



④メインガーデン

- ・既存庭園を活用しながら新たな魅力を付加した高質な庭園空間
- ・市民による庭園管理や多様な関わりを生む空間



3. 文化芸術施設整備について



賑わいをつくり、感動・交流・創造から宝塚文化を育む「文化芸術施設」

本物の文化や芸術と出会い、自由に触れあい、夢や想像力を育む場をつくる

いつも賑わいの絶えない場をつくる

文化芸術の拠点として、子どもたちをはじめ多くの人を楽しんでもらえる魅力的なイベントを年間を通じて開催

- 文化芸術に関する作品展示や様々なイベントに対応した柔軟性のある空間
 - ・ 絵画作品の展示だけでなく、デジタルアートやアートに関する幅広いイベントを開催します。
- 周辺の文化施設や緑あふれる庭園など良好な自然環境に囲まれた空間
 - ・ 緑に包まれた環境の中で、文化芸術に関する子どもたちの感性を育みます。
- 集客性に配慮した空間
 - ・ 日常的に市民に親しまれ毎日来なくなる、立寄りたくなる空間とします。
 - ・ 市外からもわざわざ訪れたい魅力あるプログラム展開に対応する空間とします。



フロア構成

各フロアの機能区分による分かりやすいフロア構成

- 2階：「感動フロア」
 - ・ 様々な展示やイベントにも柔軟に対応できるメインギャラリーは2階レベルに設け、イベント時のエリア区分を明確にするとともに、災害時の浸水による作品損傷リスクを軽減します。
- 1階：「創造・交流フロア」
 - ・ 各種講座やワークショップを行う創作スペースや、寛ぎを提供するライブラリー・カフェなど創造を主体とする活動空間は、庭園に面した1階レベルに設け、活動が発信しやすく、立ち寄りやすい位置とします。

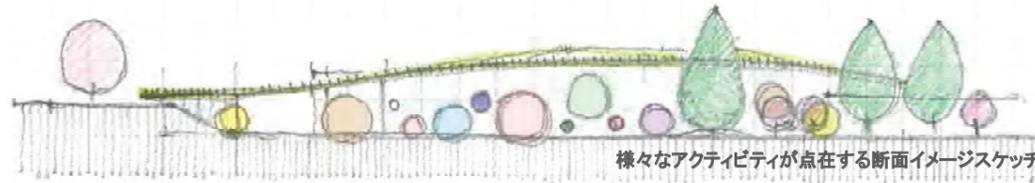
活動を感じる空間づくり

活動の楽しさを発信することで、文化芸術活動への意欲や、新たな交流を育む文化芸術活動の「ショーケース」をつくる。

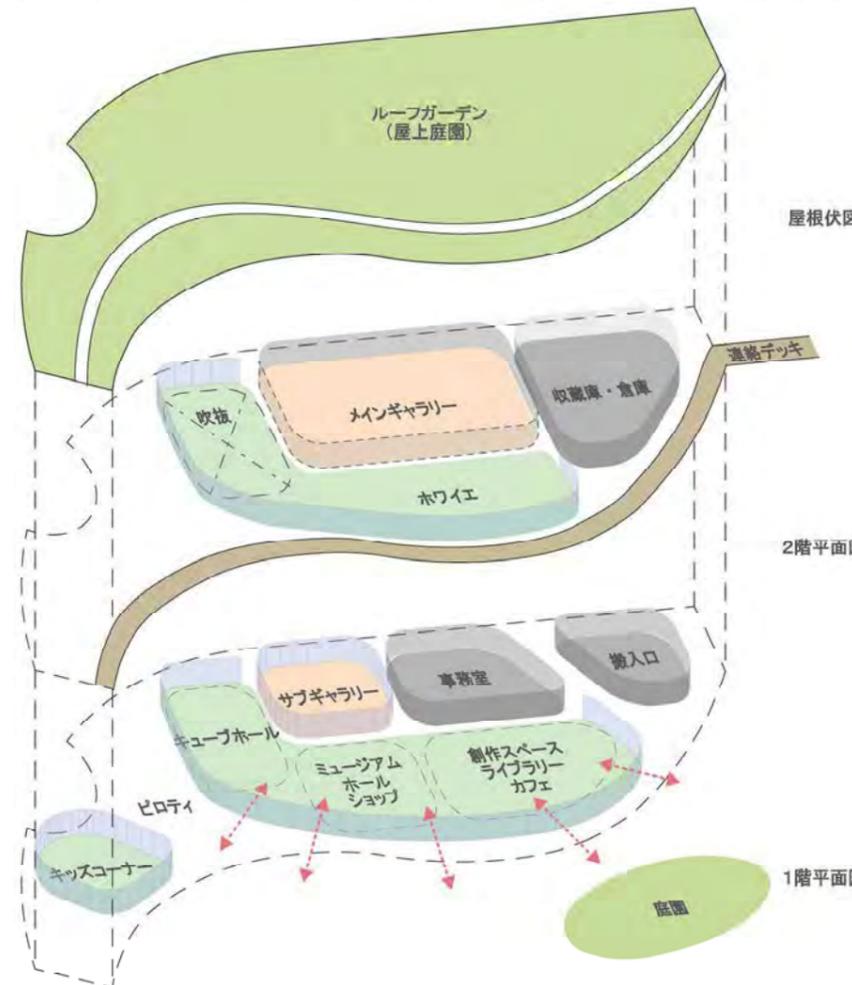
- シンプルで分かりやすく、どこからでも活動を感じることができる施設
 - ・ 吹抜けのミュージアムホールを中心に、明快な機能構成とプランを構築し「誰にでも分かりやすく、利用しやすく、活動の見える施設」とします。
 - ・ 活動する人々の姿が屋内外に開かれ、「見る・見られる」の関係が生じ、人々の興味と意欲を刺激します。
- ピロティや軒下の空間を利用し、屋内外が一体利用できる施設
 - ・ 大屋根のある開放的なピロティや軒下空間は雨や強い日差しを遮り、庭園やデッキに面したガラス面を開放することで屋内外の一体的な活動が可能となります。
- 環境負荷に配慮した施設整備
 - ・ 計画建物では自然（再生可能）エネルギーや雨水等の利活用に取り組み、環境負荷に配慮した施設とします。



庭園と連続したピロティのイメージ

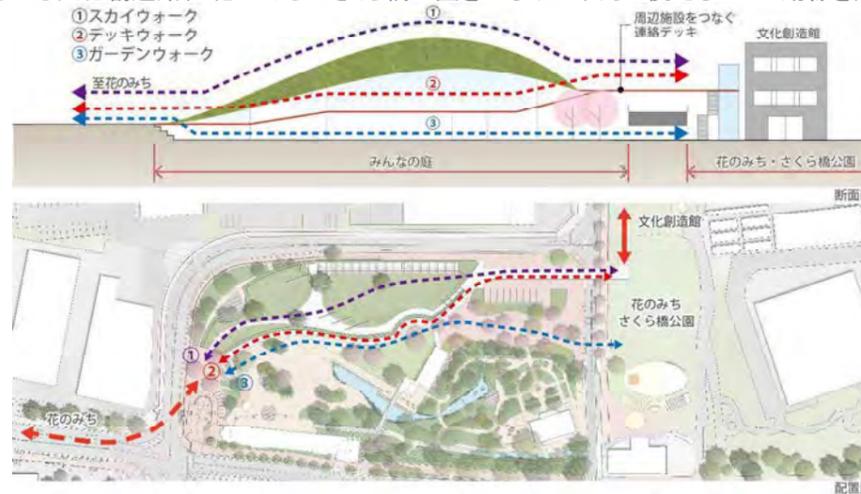


様々なアクティビティが点在する断面イメージスケッチ



■立体的につながる3つの動線

花のみちから文化創造館、花のみち・さくら橋公園をつなぐ日常的に使える3つの動線を計画します。



配置図

「感動空間」：感動を体験する空間をつくる

■「見る・学ぶ・体験する」

メインギャラリー

- ・ プロの芸術家作品など、本格的な美術展示を行うことができるスペース
- ・ 可動壁を用いた柔軟な展示空間が可能
- ・ 各種イベントでの使用も想定し、映像作品に対応可能
- ・ 大型作品展示に対応し、天井高4mを確保



メインギャラリーのイメージ

緑に包まれた良好な周辺環境を活かした、作品展示・活動・体験など、宝塚にしかない感動空間をつくりまします。

「交流空間」：賑わいにあふれた空間をつくる

■「聞く・話す・触れあう」

サブギャラリー

- ・ 市民の創作活動や発表の場として幅広い利用を想定。各種講座やワークショップなど様々な活動にも利用可能なスペース



サブギャラリーのイメージ

ミュージアムホール

- ・ 施設への導入機能として様々な活動を臨むことができる共用スペース



ミュージアムホールのイメージ

キューブホール

- ・ 多目的な利用が可能な吹抜けの共用スペース

カフェ

- ・ 自宅のリビングのような寛ぎを提供し、日常的に施設を利用してもらうスペース
- ・ ライブラリーと連携しブックカフェとして利用



ライブラリー・カフェのイメージ

ショップ

- ・ メインギャラリー・サブギャラリーと連携したグッズ販売の他、周辺施設への誘客を図るグッズを販売

日常的に、市民をはじめとする多くの人たちと触れ合うことのできる交流空間をつくりまします。

「創造空間」：創造を体験する空間をつくる

■「つくる・話す・発見する」

創作スペース

- ・ 工芸、工作、絵画など市民や子どもたちの多様な創作活動を支援するスペース



創作スペースのイメージ

■「調べる・楽しむ・発見する」

ライブラリー

- ・ 手塚治虫の代表作や文化芸術の関連書籍、庭園にある動植物の図鑑などが閲覧できる気づきと発見のスペース

キッズコーナー

- ・ 幼少期の子どもと親と一緒に安心して利用できる活動スペース
- ・ 子どもたちの創造の入口となる、夢を育むスペース



キッズコーナーのイメージ

感動体験をベースに市民や子どもたちのものづくりに対する興味をふくらませる創造空間をつくりまします。

